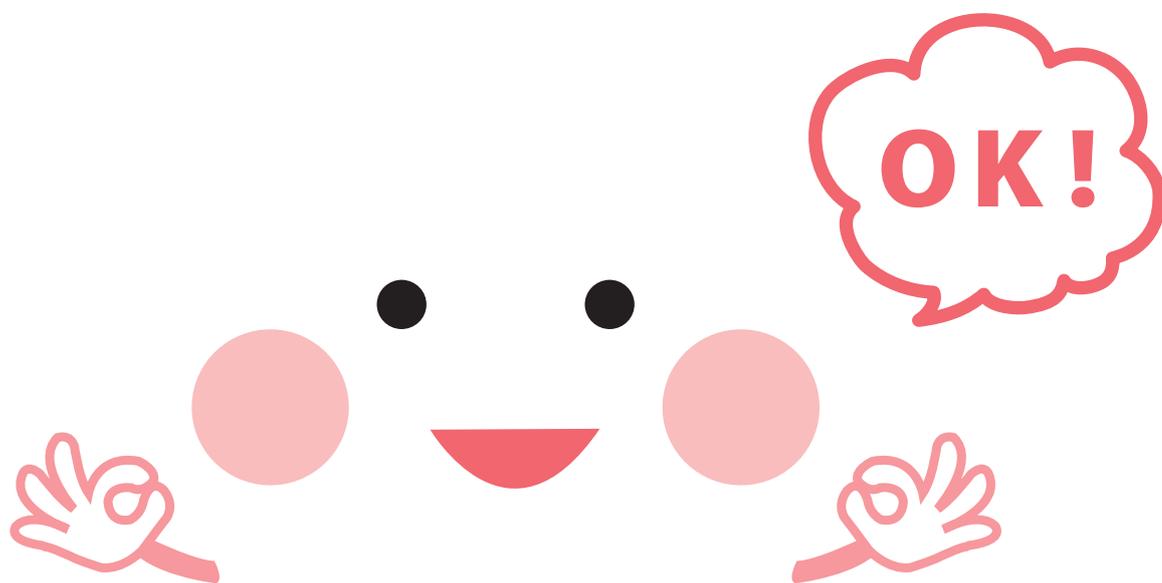


Are you ready?

準備はできてる？



リハビリ & ICT

— 介護予防ケアマネジメントにおけるリハ職とICTの活用 —





はじめに 01

chapter 1 介護予防ケアマネジメントの取り組みについて 02

chapter 2 目指す理想の地域づくり 07

ひといきコラム 09

chapter 3 事例紹介 10

- 山口市……11
- いの町……12
- 新発田市……13
- 大阪府……14
- 四條畷市……15
- 竹田市……16

元気なみらい市 18

報告書について

リハ職関与・ICT活用についてのアンケート調査結果、ヒアリング調査結果を報告書に掲載しています。このハンドブックに報告書の掲載ページを記載していますので、詳細は報告書をご覧ください。

ハンドブック記載例) [報告書 P〇〇～](#)

※報告書・ハンドブックは、アイトラックのホームページよりダウンロードいただけます →



元気な
地域づくりへ



元気な町へ、レッツ・ゴー！

高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも元気に暮らし続けることは、誰しもが望むことです。しかし、地域では少子高齢化・人口減少、そして介護職不足が深刻化しています。そのような状況において、介護保険制度にどのように取り組んでいけば良いのでしょうか。介護保険の目的は自立支援と重度化予防にあります。特に市区町村や地域包括支援センターは、事業対象者や要支援1・2などの軽度者への対応を行います。高齢者一人一人の身体面や生活面等での「できること」「できないこと」のアセスメントを行い、「できないこと」の阻害要因に対して自立支援の方法を構築していきます。このプロセスでは様々な地域課題があり、その課題に対して市区町村は政策形成や資源開発・活用等をして地域をデザインしていくこととなります。しかし地域包括支援センターなどの現場では人手不足が深刻化しており最初のアセスメントの段階で業務の煩雑さを感じています。その過程に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などのリハビリテーション専門職やICT(情報通信技術)を活用したらどのような効果があるでしょうか。このハンドブックでは、地域包括支援センターにおいて、リハビリテーション専門職やICTを活用して様々な取り組みを実践している自治体を紹介しています。今後の人口動態を鑑みると、支え手不足は残念ながら深刻さを増してきます。この状況への有効な打ち手としてこのハンドブックを活用していただければ幸いです。



chapter 1

介護予防
ケアマネジメントの
取り組みについて



みらい市物語



このハンドブックは、高齢者が元気に暮らせる地域づくりのために、行政、住民、専門職と一緒に考え、取り組んでいく過程を介護予防ケアマネジメントプロセスに添って綴っています。

あらすじと登場人物の紹介

この物語の舞台であるみらい市は、人口 18,000 人の小さな町。

高齢化率が高く、人口減少も進んでいるため、介護の分野においても人手不足が深刻化。

このままでは介護給付費も増え、要介護認定も高くなる一方で、高齢者に“本当に必要なサービス”の提供ができなくなり、次の世代にも負の遺産を残すことになる…

そんな中、高齢者福祉課へ異動してきたばかりの“未来つくるくん”が、リハ職の関与や

ICT 活用の勉強をして介護予防ケアマネジメントを円滑に回すことで、

理想の地域を築き上げていきます。



みらい市
高齢福祉課 異動 1 年目
未来 つくるくん

高齢分野は初めてで何もわからないけど、みらい市の高齢者の方たちが住み慣れたこのまちで元気に暮らしてほしいと願い、日々、勉強中。



みらい市の味方
妖精・てんちゃん

みらい市をずっと見守っている妖精。最近の少子高齢化・人口減少に危機感を感じている。つくるくんには様々な知識を教えて、全世代が安心して暮らせるみらい市を作してほしいと願っている。

みらい市の職員



リハビリテーション専門職 療太くん
地域づくりを推進するために、リハ職に何ができるのかを日々考えている。



地域包括支援センター かなえさん
高齢者の元気な生活を叶えてあげたいけど、日々の業務が忙しすぎて丁寧なアセスメントができないのが悩みのひとつ。

みらい市の住民の方々



やまさん

飼っていた犬が半年前に亡くなり、外に出ることが減ってきた。先日、玄関でつまづいて転びそうになった。



うみさん

お茶飲み友達が入院して、家に閉じこもりがちになった…。最近、段差も上がりづらくなり色々なことが億劫に感じる。



そらさん

サービス・活動 C を卒業し、家で生活しているものの、生活の中でできないことが増えてきて悩んでいる。

※このハンドブックにおいて、リハビリテーション専門職は「リハ職」、地域包括支援センターは「センター」、介護支援専門員は「ケアマネ」、介護予防サービス計画書は「予防プラン」とします。

物語のまえに

「介護予防ケアマネジメントについて」



みらい市でも 少子高齢化・人口減少が進む中で、介護予防の取り組みが重要になってくるよ！ そのため、適切な介護予防ケアマネジメントがポイントになるんだ！

でも、センターの人たちは業務がたくさんあってとても忙しそう…あれ？ でも、そもそも介護予防ケアマネジメントって何だろう？

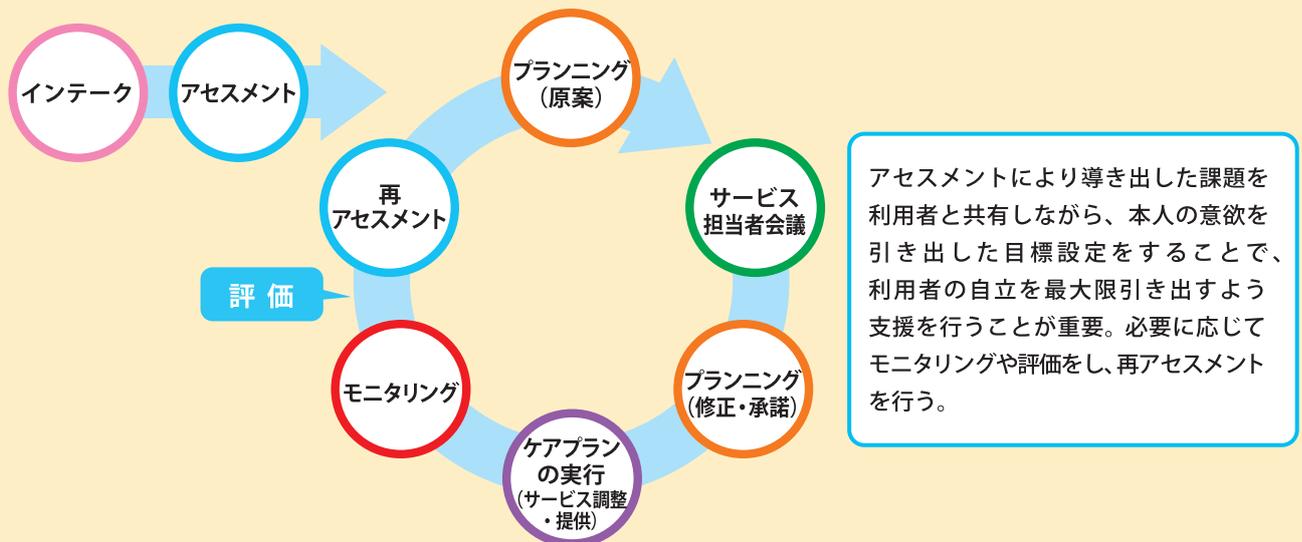


センターの人だけをお願いするのではなく、リハ職と連携したり、ICTを上手に活用すれば、介護予防ケアマネジメントのプロセスもスムーズに回るようになるよ。まずは介護予防ケアマネジメントの流れを見てみよう！

介護予防ケアマネジメントとは

高齢者が要介護状態になることをできるだけ防ぎ、また要介護状態になっても状態がそれ以上に悪化しないようにすることで、その人の生活・人生を尊重し、できる限り住み慣れた地域で自立した生活を送れるようにするための支援。

《介護予防ケアマネジメントのプロセス》



リハ職と連携し、ICTを活用することで、センター業務の負担感の軽減と介護予防ケアマネジメントの質の向上・効率化が図れるよ。これからは地域ぐるみでの支援が大切！ さっそくみらい市の介護予防ケアマネジメントを覗いてみよう！



つくるくんの困っていることその① インテーク・アセスメントの取り組み



センター職員さんの初回面談を覗いてみよう！

先日、玄関で転びそうになってなあ。介護保険で手すりが付けられると聞いたけど…。

できますよ！まずは、手すりの見積りをしましょう。

手すりがあると便利じゃのう！

次は、風呂にも手すりが欲しい

住環境の整備は大切だけどこんなに手すりが必要かなあ？本当に正しいサービス選定ができてるのかなあ？

大切なのはアセスメント！利用者の要望だけでなく、客観的に課題を捉えることが重要なんだ！

転ばないようにと思ったんだけど…。やまさんの課題は何だろう？利用者を客観的に捉えるアセスメントって、どうするの？

手すりは便利だけど手すりのある環境でしか移動ができなくなると困りますよね。



てんちゃんの解決アドバイス！

『専門職の視点を学んでスキルアップ！』



リハ職の活用

- 同行訪問で、生活課題のアセスメントができるよ。
- 見通しを立て、目標を明確化することで、利用者のなりたい姿に近づけるよ。
- 医学的視点でリスク管理のポイントを教えてくれるよ。
- 福祉用具や住宅改修のアドバイスがもらえるよ。



ICTの活用

- 経験の少ない職員でも抜け漏れのないアセスメントができるよ。
- 動画や写真撮影をすると自宅を訪問していない職員とも相談できるよ。
- 運動だけでなく口腔・栄養・聴覚等の課題もわかるよ。



つくるくんの困っていることその②

プラン作成とサービス実施の取り組み



適切なサービスに繋がっているか、覗いてみよう！

歳のせいか、最近、お風呂に入るのも大変なの…どこかでお風呂に入れないかしら？



それならデイサービスでお風呂に入りましょうか？できないところを手伝ってもらいましょう。

うみさんは、フレイルっぽいから、短期間で改善しようけど…。でも、デイサービスでお風呂に入りたいんだろうなあ。



大切なのは“見通し”！利用者がフレイルに陥っていたとしても、良くなる可能性はまだまだあるよ！



うみさんは、良くなる可能性があるの？ また自宅でお風呂に入れるようになるのかなあ…。見通して難しい…予防プランの説明をして納得してもらうためには、どうしたらいいの？



できない動作をアセスメントするとできない原因が見えてきます。具体的な目標があると合意が取りやすくなりますよ。



てんちゃんの解決アドバイス！

『目標を共有して、ご本人の力を引き出そう！』

リハ職の活用

- 運動指導や利用者にあった運動負荷量の調整、リスク管理をしてくれるよ。
- 利用者の様々な課題に対して、個別支援に入ってくれるよ。
- 改善ポイントを教えてくれるよ。
- 自宅の環境を活用した体操を教えてくれるよ。

ICTの活用

- 動画を活用することで、本人・センター・事業所で同じ目標を共有できるから、合意がとりやすいよ。
- オンラインの地域ケア会議で、生活動作や体力測定の動画を共有すると具体的なアドバイスがもらえるよ。
- サービス開始前後の動作の比較ができ、利用者のモチベーションアップに繋がるよ。



つくるくんの困っていることその③ モニタリングと評価の取り組み

サービス・活動Cの利用者さんの
その後はどうなってるのかなあ？

6ヶ月前

サービス・活動Cで運動をスタート！

体が軽くなって
元気になってきたぞ



サービス・活動C卒業後

自宅で自由に暮らす

家でのんびりは
楽で良いな～



現在

6ヶ月後の自宅訪問

動くのもしんどくて…
外に出る気になれないなあ



なんで、6ヶ月後に
元気がない姿に戻って
しまったんだろう
？ ？



そういえば、
普段は家で過ごす
ことが多いって
言ってましたよね。



大切なことは元気な状態を
"維持" すること！！
サービス・活動Cを利用し、卒業した後に
元気であり続けるための
受け皿づくりも
重要だよ！



みらい市の受け皿は
どうなってるのかな？
そらさんに合った活動の場を
見つけてあげないと…



てんちゃんの解決アドバイス！

『通いの場を拡大！介護予防の地域づくり！』

リハ職の活用

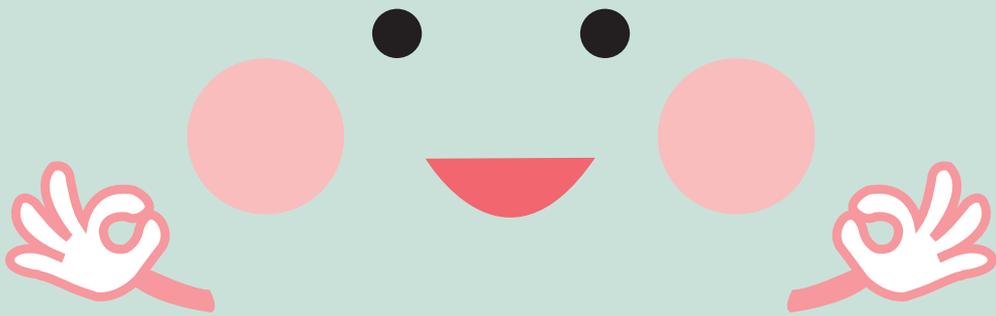
- 通いの場の立ち上げ支援をしてくれるよ。
- 通いの場の支援に入ってもらうことで、フレイルの早期発見ができるよ。
- 地域のサロンやシニアクラブで、介護予防や認知症など様々なテーマで講話をしてくれるよ。

ICTの活用

- 地域分析のデータ活用や住民の体力測定の結果を分析することで、受け皿づくりのヒントになるよ！
- 元気になった方の動画をモデルに、サービス・活動Cを紹介するのもおすすめ！住民の介護予防普及啓発を図れるよ。

chapter 2

目指す理想の
地域づくり



みらい市の未来図

こんな地域づくりを目指していくんだ!

インテーク

聞き取り内容を共有し業務効率化に繋げる

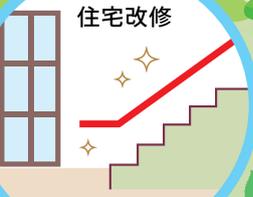


ICT

アセスメント

抜け漏れのないアセスメントと改善の見通しで、利用者のやりたいことに繋げる。

住宅改修



福祉用具選定



ICT

リハ職

予防プラン作成

利用者がなりたいたい自分になるための目標を立てる

ICT



本人の目標に向けたサービスに繋がられるわ!

サービスの提供

多様なサービスの中から利用者に合ったものを選択

事業所

デイサービス



リハ職

生涯教育の場



サービス・活動C

オレンジカフェ

通いの場



リハ職

リハ職の役割

- 体力測定
- 運動指導
- 講話

ICT

いつまでも元気に暮らせるまちづくり

市区町村、地域包括支援センターだけでなく、都道府県や関係するリハ専門職団体、事業所、住民がみんなで同じ方向を向くことができるよう、リハ職やICTを活用し、**高齢者が元気になるまち**を目指す。

地域包括支援センター

市区町村

都道府県

リハ専門職団体



地域ケア会議

多職種で動画を共有し、利用者の改善状況などを確認することで個別課題を解決する。データ分析を通して地域づくりに活かす。



モニタリング

利用者の状態変化やサービス実施状況とあわせて定期的なデータの推移をみることで、本人のなりたい姿を確認する。



オンライン支援

リハ職の遠隔支援による人材育成



住民リーダーの支援

通いの場で活躍する住民リーダーをサポートし住民の運動・生活機能維持・向上に貢献



{ほっ}

ひといきコラム

「こんなことしてます！」をご紹介します

column | 静岡県伊東市
01 | タブレットで歩行動画を撮影

歩行状態の可視化で運動意欲向上！
介護予防の普及啓発へ

市職員が市内体操教室 19 カ所を回り、タブレットで歩行状態を撮影。アプリの評価シートがその場で出力され、改善ポイントとして個別の運動を提案してくれるので、セルフケア定着に役立つ。定期的な測定結果がグラフで可視化できるので、住民のモチベーションアップにも繋がっている。また専門職でなくても活用できるので、介護予防の普及啓発に役立っている。



報告書 P171～



column | 石川県志賀町
02 | 避難所でのリハビリ体操でフレイル予防

平時からの専門職の関わりが災害時の支援へ繋がった
平時からセンターの事業の一環で、リハ職が生活習慣の改善や運動の目的を住民に伝え、住民の体操指導者を育成していた。発災直後からこの体操指導者が中心となり避難所で体操教室を実施したり、避難所の運営を手伝い始めたりと、住民が受け手としてではなく、担い手として活動できた。

報告書 P168～



市区町村とセンターに聞いてみました！

■ ICT 機器 & システム導入活用時に期待する効果

アンケートの結果

市区町村が選んだ上位 6 位 (n=693/MA)		センターが選んだ上位 6 位 (n=1998/MA)	
①記録業務の効率化	86.7%	①記録業務の効率化	91.0%
②アセスメント・計画作成の効率化	72.6%	②関係機関間のスムーズな連携	70.8%
③タイムリーな情報共有	67.4%	③タイムリーな情報共有	70.6%
④関係機関間のスムーズな連携	63.5%	④アセスメント・計画作成の効率化	70.0%
⑤アセスメント・計画作成の平準化	43.0%	⑤利用者情報・センター事業の統計処理	38.2%
⑥アセスメント・計画作成の質向上	42.7%	⑥利用者情報・センター事業の地域分析	34.6%

■ リハビリテーション専門職の関与時に期待する効果

市区町村が選んだ上位 5 位 (n=693/MA)		センターが選んだ上位 5 位 (n=1998/MA)	
①アセスメントの質向上	83.7%	①アセスメントの質向上	75.8%
②地域ケア会議での専門的助言	80.1%	②福祉用具適合のための助言	72.6%
③利用者・家族への助言・指導	73.3%	③地域ケア会議での専門的助言	70.6%
④ケアプランの質向上	65.7%	④利用者・家族への助言・指導	68.3%
⑤サービス担当者会議での専門的助言	59.2%	⑤住宅改修の助言	64.4%

報告書 P20～

chapter 3

事例紹介



つくるくんが行く！日本全国、視察の旅！ 各市区町村の事例紹介



P. 11

山口市 (山口県)

リハ職と一緒に“生活”を考える仕組みづくり

P. 12

いの町 (高知県)

リハ職のオンライン支援で地域づくりを推進

P. 13

新発田市 (新潟県)

動画を共有することで生活課題が見える化

P. 14

大阪府

リハ職指導者の養成スクールを開設

P. 15

四條畷市 (大阪府)

リハ職がアセスメントの質向上に貢献



P. 16

竹田市 (大分県)

充実したリハ職と ICT 活用で介護予防を推進



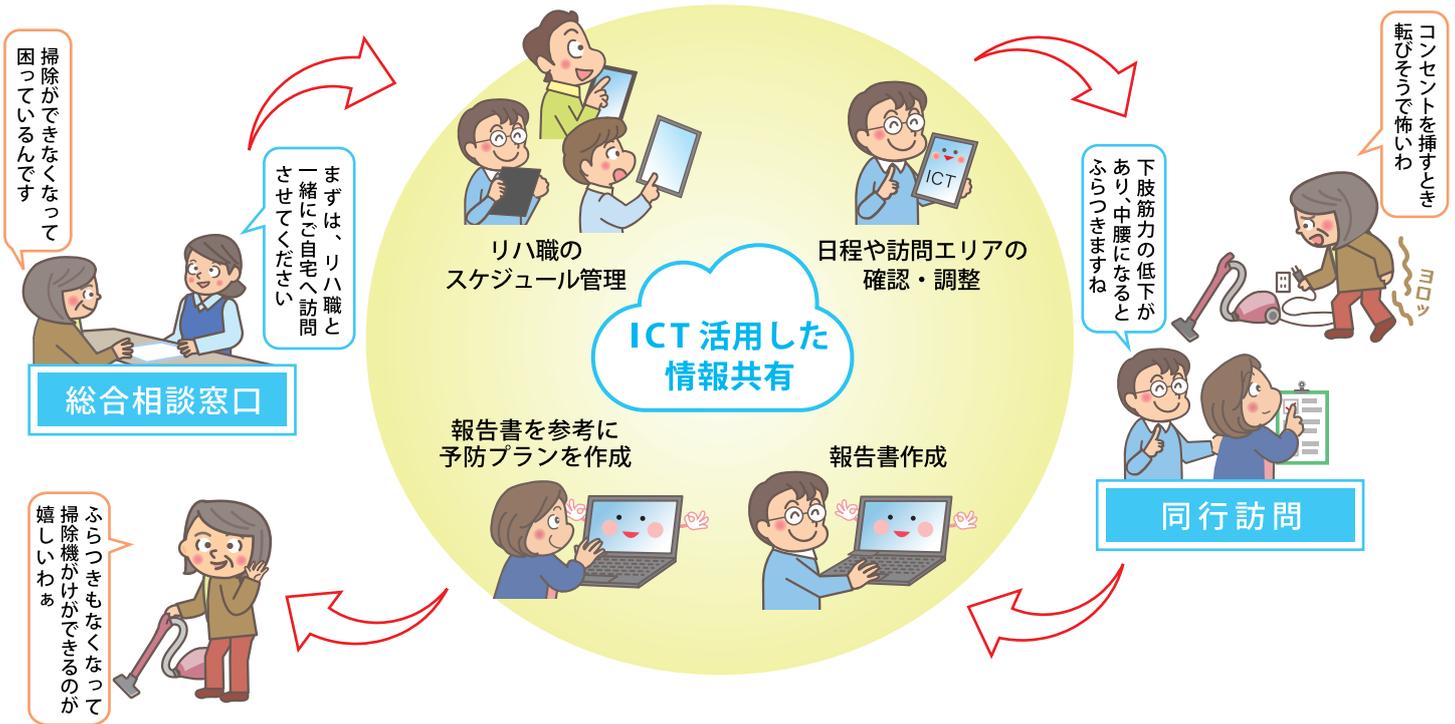
今回紹介できなかった事例は、報告書をご覧ください！





山口市

「洗濯物が干せなくて困っている」「介護保険の支援を受けたい」など、センターの相談窓口に来られた高齢者に対して、センター職員とリハ職や生活支援コーディネーター（SC）がご自宅に同行訪問することを提案し、生活の困りごとの原因究明と解決方法を一緒に考える取り組みを行っています。また、その連携をスムーズに行うためにICTを用いた情報共有の仕組みを活用しています。



ポイント① 『リハ職・SCとの同行訪問』

- ①センターの職員だけで動いていたが、多職種協働に改善することでアセスメントが細やかになり、予防プランの作成がスムーズになった。
- ②リハ職が、将来的な状態改善も見据えた方向性を示し、利用者、ケアマネ、SCと共有することで、利用者の強みや趣味趣向を踏まえた上で可能性のある地域資源に繋いでいける。

過去の実践

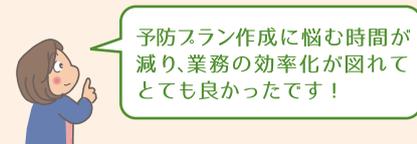
リハ職を導入し、多職種協働に改善



ポイント② 『予防プラン作成』

リハ職作成の報告書がICTを活用して情報共有され、その内容を参考に予防プランを作成することができる。

報告書 報告書には、ICFの各項目と〔運動・移動〕〔日常生活〕〔社会参加〕〔健康管理〕の4領域についてアセスメント内容と課題解決における提案を記入



つくるくんの感想

リハ職の最大の強みは、生活課題のアセスメントと解決策の提案ができること！利用者自身に生活の課題に気付いてもらい、その解決に向けた取り組みをイメージしてもらうことこそが主体的な生活を再構築するのに欠かせないんだね。そして、そのようなリハ職の関わりを地域で実践していくためには、訪問の日程調整や報告書の共有にかかる負担をできるだけ軽減できるようICTを活用して連携を行うことが重要なんだね。



いの町

いの町では、以前から自立支援につながる予防プランの立案やアセスメント方法等の研修を行っていたが、予防プランを立てた後、支援を担ってくれる事業所がなかった。そこで地域支援事業の支援経験があるアドバイザー（リハ職）から、オンラインで遠隔支援を受け、自立支援に資する従前相当サービスを開始した。早期にフレイル予防に取り組むことで介護給付費や要介護認定率の低下にも繋がっている。

Online

事業所

現場でアドバイスが受けられる。
わからないことがすぐ聞いて理解しやすい。

アドバイザー（リハ職）

遠隔地の事業所をオンラインで確認。現場とやり取りをしながら支援することができる。

地域包括支援センター

アドバイザーと事業所を繋ぐ。
リハ職としての専門性も活かせる。

地域ケア会議

何が課題になるのか、その課題に対する解決策などもオンラインで支援！

支援を受けて、変わったこと！

自立支援に資する従前相当サービスの開始

目標達成への取り組みや進捗状況を利用者と一緒に確認し、できることが増えていることを自覚してもらい、自信に繋げることができた。サービスからの卒業や地域活動の再開など、地域の活性化にも繋がっている。

事業所で行っている様子をアドバイザーと動画で共有

タブレットを用いて利用者の様子を撮影しながら、オンラインにてアドバイスを受けることができる。利用者への支援方法などの詳細なアドバイスがもらえるため、事業所職員の知識が増え、利用者の生活機能向上に繋がっている。

地域ケア会議の役割が明確化

センターにリハ職を配置したことで、個別課題から地域課題の連動性が明確になった。またオンライン支援では、経験のあるアドバイザー（リハ職）から、他の地域の具体的な取り組みを聞くことで、地域課題の掘り起こしや解決にも繋がった。



つくるくんの感想

いの町に限らず、社会全体の課題として支え手側の人材不足が懸念されている。離島や山間部、リハ職などのマンパワー不足等の地域課題を抱える市区町村やセンターの解決策の一つとして、地域づくりを経験したリハ職によるオンライン支援が選択肢にあがれば、高齢者が元気になる取り組みが可能になり、社会全体の課題解決に向けた打開策にもつながるぞ！



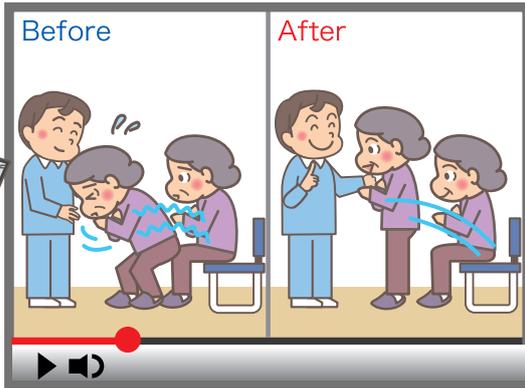
新発田市

令和2年度よりモデル事業として、生活課題の解決を目標に『運動・栄養・口腔』を複合的にアプローチしていくサービス・活動Cを開始した。改善度の確認のためにサービス・活動C利用の初回、中間、最終の生活動作と教室での体力測定動画撮影を行い、地域ケア会議で動画を共有し、多職種で検討するようになった。

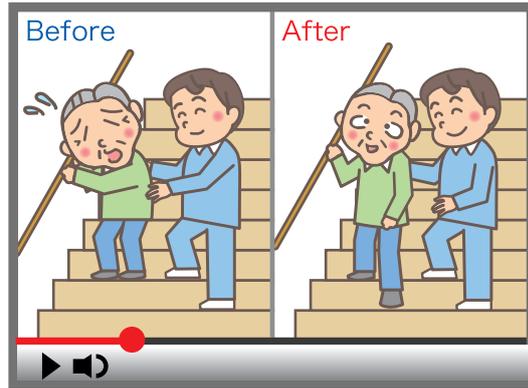
動画を撮影し
皆で、確認！



事業所職員



《定期的に行う体力テスト》



《リハ職の同行訪問により生活動作を確認》



↑
《新発田市HPより》
↑ 詳しい動画をご覧になりたい方はコチラ

動画を共有したメリット

《多職種で動画を共有》

書面の文章だけより助言がしやすい

ケアマネの介護予防ケアマネジメントの質の向上に繋がっている

地域ケア会議で利用者の予防プランを検討



広報、周知活動に動画を活用することで、住民に理解されやすくなり、サービス・活動Cの利用希望者も増えた。

地域ケア会議でリアルに検討できる

《家族と動画を確認》

利用者、家族と一緒に動画を見ることで運動機能や生活動作の改善を実感し、より動機づけがしやすくなった。



自宅でのセルフマネジメントも運動だけではなく、家事動作などの生活動作を意識する人が増え活動範囲も広がった。

1ヶ月前と比べると全然違うね～!



つくるくんの感想

動画を共有し、多職種が意見を出し合うことで、利用者の選択肢も広がり良い方向へ導くことができているんだね。また80～90歳代の高齢者でも改善した利用者も多く、市・センター・事業所の人たちの大きな励みになっているね。認定率が18.5%（令和3年）から16.6%（令和6年）に、介護保険料（月額）が550円減ったのは大きな成果だなぁ。

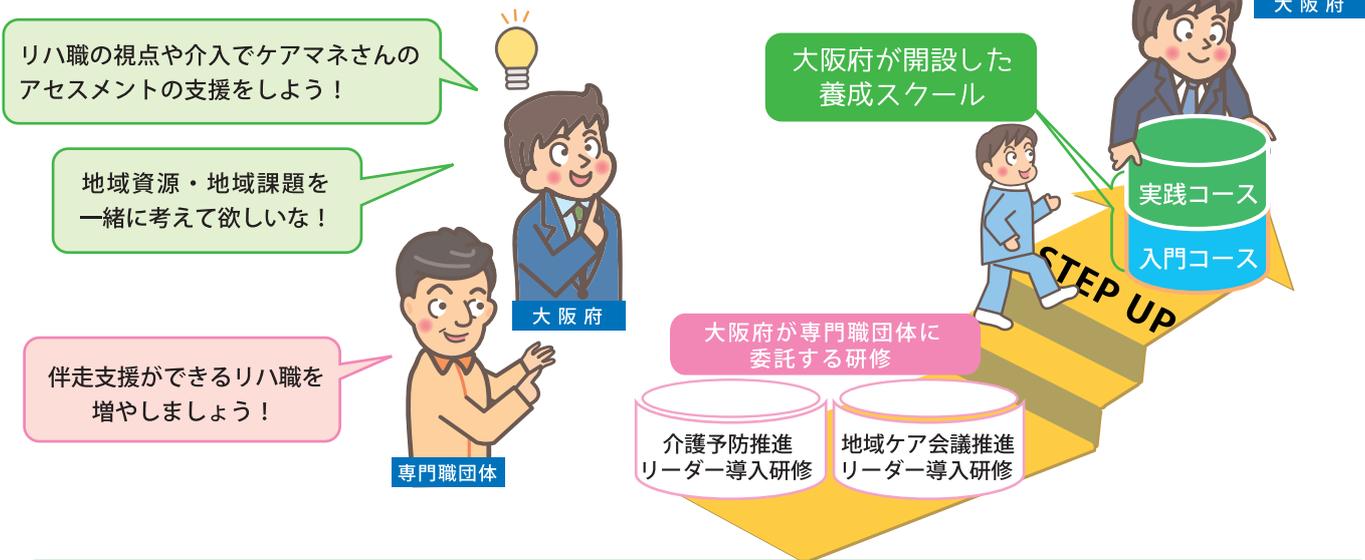


「リハ職指導者の養成スクールを開設」



大阪府

サービス・活動Cの重要性が認識されるなか、リハ職の同行訪問などによるアセスメント力の向上を目的とした「生活課題アセスメント訪問指導者養成スクール」を立ち上げた。さらに市区町村への“サービス・活動Cの普及展開”“生活環境の評価や課題の明確化”“地域資源の活用”“サービス・活動Cの立ち上げ支援”にも繋がっている。



生活課題アセスメント訪問指導者養成スクール（大阪府が開設した養成スクール）

入門コース

- ① 講義・演習
- ② 実習・自己学習

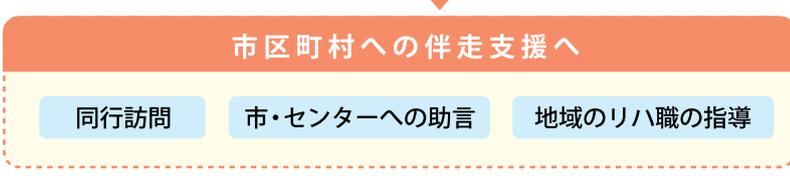
内容
<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援事業について ・自立支援の理念について ・総合事業見学実習 ・アセスメント訪問実践実習 など

実践コース

- ① 重点支援市などへの派遣
- ② フォローアップ研修

内容
<p>《アセスメント訪問実践》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス・活動Cや通いの場への支援 ・事例演習 ・市区町村との連携・支援 など

養成スクールの様子



つくるくんの感想

大阪府は、府・リハ専門職団体・市区町村・センターが協力して事業展開をしていく中で、この養成スクールを基軸に、地域の介護予防ケアマネジメントの質の向上につながっていく様子を感じ取れたぞ。今後は自立支援を構築する場が、地域ケア会議だけではなく、現場でケアマネさんとリハ職と一緒に課題整理をし、予防プランを考えることで、地域課題の解決につなげていきたいって言うたなあ～。

リハ職
(スクール卒業生)



四條畷市

大阪府の養成スクール(P14参照)を卒業したリハ職が、ケアマネのアセスメント場面への同席や地域ケア会議への参加を通じて、リハ職によるアセスメントの視点で見通しや目標の明確化、課題解決に向けたサービスの選定を助言している。ICTシステムはアセスメントと予防プラン作成時に活用。入力したデータを蓄積し、地域分析に役立てている。

四條畷市の支援に入ります

インタビュー

最近、困っていることはありますか？

ケアマネ

最近、転びやすくて外に出るのが怖いのよ

転びやすくなった原因は何だろう？



アセスメント

リハ職同行訪問

できること・できないことについて身体機能の評価を行い、阻害要因や改善の可能性を確認することで、なりたい姿(目標)になれるかどうかを根拠を持って説明できる。



リハ職

阻害要因

下肢・体幹筋力が低下していますね！

複数の阻害要因から選択

サービス選定・改善の見通し

サービス・活動Cでの下肢強化の運動で改善しそうです！

改善の可能性を助言してもらえるから目標が立てやすいわ。

ケアマネ

予防プラン作成

なりたい姿の明確化

元気になったら、本屋まで歩いて行きたい、って話してたなあ。

ICTの活用！

利用者に合った内容を取捨選択し、目標を立てられる！

ケアマネが利用者に合った内容に整理し予防プランに反映

予防プラン

アセスメント内容が自動反映され、予防プランが作成しやすくなった！

ICTを活用！

ケアプラン作成支援ソフトを活用することでアセスメントに求められる視点が可視化される。

『漏れのない情報収集』&『思考の整理』

アセスメントの質の向上・平準化！



様々なアセスメント帳票

生活機能評価表

室内歩行 伝い歩き

工程分析

工程	阻害要因
①	下肢筋力の低下
②	体幹筋の低下

リハ職の関与に加えてICTも活用することで、アセスメントが可視化され、リハ職と他の職種、さらに利用者が共通認識できるツールとなり、リハ職の助言内容の理解にも役立っているんだね。また、センター職員だけの視点ではなく、リハ職によるアセスメントの視点を加えることで、さらなる介護予防ケアマネジメントの質の向上にもつながっているんだ。



基本情報

管内人口：18,447人（令和6年8月1日時点）／センター数：1カ所（直営0・委託1）／高齢化率：49.6%（令和4年）



竹田市

様々な財源を活用して、センターに5職種（PT・OT・ST・管理栄養士・歯科衛生士）を配置。一般介護予防事業、総合事業に関与することで、自立支援の視点や専門職ならではのアセスメントの視点を多職種で共有した。またケアプラン作成支援ソフトも導入したことで生活機能向上を目指し、より自立支援につながるケアマネジメントの推進に繋がった。

PT：理学療法士 OT：作業療法士 ST：言語聴覚士

住民の生活機能向上の実現のためリハ職・ICTを積極的に活用

住民の生活機能向上を目的として、地域の様々な場に専門職5職種が関与。

運動、栄養、口腔、嚥下、聴覚などの課題にも随時対応している。

リハ職活用①

リハ職と同行訪問
自立支援の視点で適切なサービス選定を行うためのアドバイザーとしてリハ職が関与



リハ職活用②

センター内でのリハ職関与
利用者の様々な課題に対する個別支援、サービス・活動Cの推進のためにリハ職を配置



ICT活用①

予防プラン作成
介護予防ケアマネジメントの推進により、予防プランの適正化を図ることを目的としてICTを導入

ICT活用②

ケアマネのアセスメント
聞き取り内容をその場でタブレットに入力し、ケアマネジメントの質を担保するためICTを活用



サービス・活動C

リハ職活用③

運動指導、運動負荷量の調整、リスク管理、ホームプログラムの提案のためリハ職が関与

ICT活用③

サービス利用前後の動画を比較し改善状況を確認するためにICT（タブレット）を導入



地域ケア会議

リハ職活用④

生活機能向上を目指した助言のため、リハ職が関与

ICT活用④

動画やアセスメント内容を共有するためにICTを活用



様々な通いの場

リハ職活用⑤

通いの場の支援
通いの場の立ち上げ、運動指導、体力測定実施のためリハ職が関与

リハ職活用⑥

住民トレーナーへの助言・サポート
住民トレーナーのサポートのため、リハ職が関与



リハ職活用⑦

住民向け出前講座
要望に応じた様々なテーマで講話をするためリハ職が関与



★住民トレーナーとは？

住民が自主的に介護予防に取り組むため市の養成研修を受講し、通いの場などで体力測定や運動指導を行う



リハ職・ICT 活用のポイント解説

リハ職活用①

リハ職と同行訪問

利用者の残存機能を見極め、今後の見直しを行うことで、具体的な目標が示され**合意形成が取りやすくなる**。適切なサービス選定に繋がることで**給付費の適正化を図る**。

リハ職活用②

センター内での関与

利用者の運動・栄養・口腔・聴覚など複合的な課題に対する相談に随時対応することで、サービス・活動Cや通いの場への参加の動機づけを行うなど、**社会参加への推進を図る**。

ICT活用①

予防プラン作成

入力したアセスメント結果が予防プランに反映されるため、生活課題を明確化し、具体的な目標の設定ができる。
→**介護予防ケアマネジメントの質の向上・効率化**

ICT活用②

ケアマネのアセスメント

聞き取った内容その場でタブレットに入力することで、経験の少ない職員でも、抜け漏れのないアセスメントが行える。
→**介護予防ケアマネジメントの平準化**

リハ職活用③

ICT活用③

サービス・活動C

利用者に向けた生活機能向上のアドバイスやサービス利用前後の動画により、改善状況を確認することで、やりたいことの実現を目指し、**卒業後の適切な社会参加を支援する**。

リハ職活用④

ICT活用④

地域ケア会議

多職種が生活動作などの動画やICTを活用したアセスメント内容を共有することで、**課題や目標が明確になり、その後の社会参加をイメージしやすくなる**。

リハ職活用⑤

通いの場の支援

立ち上げから関与し、定期的に体力測定を行うことで、**フレイルの早期発見**ができるため、適切なサービスへ繋がられる。

リハ職活用⑥

住民トレーナーへの助言・サポート

リハ職がサポートすることで、住民トレーナーのスキルも向上し、通いの場参加者の**運動機能や生活機能向上**を図っている。

リハ職活用⑦

住民向け出前講座

センターに多職種を配置しているため、様々なテーマで講話ができ、**住民への介護予防普及啓発を実施**している。

住民のなりたい姿を応援します！

リハ職



介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指すぞ！

ICT

コラム

「サービス・活動C」と「通いの場」が介護給付費抑制の鍵！

～サービス・活動C利用群と未利用群では1人あたり3年間で介護給付費に50万円の差～

竹田市では、「リハ職が関与するサービス・活動C」を利用し、要介護リスクが低減することで、市全体の介護給付費の適正化に繋がっている。サービス卒業後も、送迎サービスのある運動教室や、歩いて参加できる「通いの場」などへの参加率が高く、高齢者の「通いの場」参加率が10年連続全国1位の大分県の中でも、竹田市が他の自治体を牽引している。このような活動が生活機能向上に伴う介護予防効果に繋がっている。



つくるくんの感想

リハ職が様々な場面に介入することで、通いの場などの一般介護予防事業からも支援が必要な利用者を把握し、早期にアセスメントに入れるので適切なサービスにつながって、地域での生活が維持できているんだね。さらにICTを活用して、アセスメント結果などを共有することでリハ職から具体的なアドバイスがもらえ、利用者の合意形成が取りやすくなるんだ。介護予防の推進に、リハ職の関与とICT活用は大いに役立っているなあ～！

報告書 P208～

何歳になっても元気になれる！

元気な高齢者が増えたみらい市

やまさん



手すりがついて楽だったんだけど、だんだん動くのがしんどくなってきて…家に来たりハビリの人に「筋力をつけた方がいい」と言われて家で運動をがんばったぞ！今は、週3回のグランドゴルフを仲間と一緒に楽しんどるんじゃ！

うみさん



体操を続けていたら動くのが楽になってきてお友達とランチも行けるようになったの。ケアマネさんがいろいろお話を聞いて励ましてくれたからがんばれたわ！今は、毎週あるお弁当作りのボランティアが楽しみなの！

地域の体操教室にも通って今では他の人に体操を教えたりもしてるんだよ。来月、そのグループで温泉旅行に行くんだ！

そらさん



財源や人手不足など様々な問題を抱えるなかで、リハ職やICTを活用して介護予防ケアマネジメントを進めた結果、みらい市の3人（やまさん、うみさん、そらさん）の心身の状態が良くなり、このまちで人生を楽しんでいるのを見て嬉しくなりました！元気になった高齢者が増えたことで、給付費の抑制につながったことも嬉しいです！これからも、もっと元気な地域を目指します！



厚生労働省 令和 6 年度 老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費補助金）
地域包括支援センターにおける介護予防サービス計画等の
作成へのリハビリテーション専門職の効果的な関与や AI・ICT 等を
活用した効率化に関する調査研究事業

地域包括支援センターにおけるリハ職と ICT の活用ハンドブック

発行日 / 2025 年 3 月 30 日

発行 / 株式会社 アイトラック

〒870-0126 大分県大分市大字横尾 1939-4
TEL 097-547-7882 FAX 097-547-7561

編集責任者 / 佐藤 孝臣

<http://aitoraku.co.jp>



